

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「巨乳倶楽部とゴッドハンド」

テーマ:「憐れむほど貧乳なのに、巨乳になることをあきらめない美少女(たち)」

キャラクター

50

ストーリー

35

テーマ(設定)

40

文章力

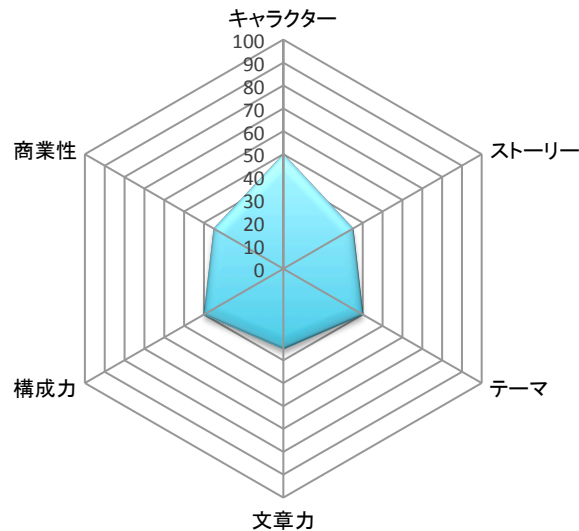
35

構成力

40

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・全文通じてくだらない。もちろん良い意味で。特に巨乳倶楽部の女の子たちがほとんど0cmの胸の成長に喜んでいるシーンは、登場人物が全員ちょっとおかしいというのを端的に表している面白いエピソード。ただし詰め込みすぎた感じが否めない。原稿用紙換算で36枚であるので、もう少し巨乳倶楽部と主人公の絡みを通じた登場人物たちの心情変化を書き加えることで更に面白くなったのではないかと感じる。例えば今回は50枚という制限上難しいが、主人公の100回というゴッドハンドパワーを使い切ってしまう、巨乳倶楽部の中での主人公の必要性が薄れ、主人公が序盤のオヤジを探しまわってゴッドハンドパワーをくれと懇願する、エピソードがあれば更に鳥籠らしく小説らしい面白さが更に生まれるか。

・思いつきくだけない面白さを売りとしている中で、一瞬でも葵の胸が小さくて押潰されるようになった・不登校になった設定は出すべきではないと考えられる。中途半端に重いだけなので、いっそ「葵は貧乳であることに悩み過ぎて、巨乳を指すべく周りで牧場に通っていた。自らの胸をみななら良質な牛乳を飲んで、巨乳になるためのコツを牛に尋ねていた。そうか……お前も悩んでいたんだな」くらい、悩んでいる方も励ます方も頭がおかしい方が作品にくだらないという貫性が生まれ面白くなると思われる。

合計加点ポイント 0

総得点: 235 / 600

B方式総合得点: 9204 点